

1 国（地域）名：フィリピン共和国

## 2 選挙権年齢（被選挙権年齢）と成人年齢

(1) 選挙権年齢・法改正年：18歳・1973年

The Constitution of the Republic of the Philippines. (1973). Article VI. Suffrage

(2) 被選挙権年齢・法改正年：25歳（下院議員）・35歳（上院議員）

(3) 成人年齢・法改正年：18歳・1987年

The Family Code of the Philippines: Executive Order No.209. (1987) .

表1 フィリピンにおける選挙権年齢の歴史的変遷

年	選挙権年齢	選挙における若者
1901	23歳以上（男性のみ）	
1916	21歳以上（男性のみ）	
1935 (1935憲法)	21歳以上（男性のみ）	
1937	21歳以上 (許可された女性を含む)	
1973	18歳以上（全フィリピン人）	
1975		Kabataang Barangay (青年バランガイ議会) (15-18歳)
1977		Kabataang Barangay (青年バランガイ議会) (15-21歳)
1987から現在	18歳以上（全フィリピン人）	
1991		Sangguniang Kabataan (青年協議会) (15-21歳)
2002		Sangguniang Kabataan (青年協議会) (15-17歳)
2015		Sangguniang Kabataan (青年協議会) 15-17歳区分、18-24歳の区分 25-30歳の区分

## 3 社会系教科目の構造

(1) 各国の学校教育制度：

初等教育(小学校：Elementary School)が6年間、中等教育（現地ではHigh Schoolという）が4年間の6－4制から、中等教育を2年間上積みし、さらに5歳児(Kindergarten、日本でいう幼稚園年長)から公的教育を開始する「K to 12」（幼稚園1年間、小学校6年間、中学校

(Junior High School) 4年間、高等学校 (Senior High School) 2年間の制度へ移行中である。

(2) 社会系教科目の構造：

幼稚園から小学校は環境拡大法による配列となっている。具体的には、次のような内容となっている。

幼稚園：私とコミュニティ。小学校（1年：私・家族、学校。2年：過去と現在のコミュニティ。3年：フィリピンの地方。4年：国 (Country) としてのフィリピン。5年：国家 (Nation) としてのフィリピン。6年：ナショナリズムの挑戦と応答）。

中学校段階は歴史と経済、政治的諸問題となっている。

7年：アジアの歴史。8年：世界史。9年：経済。10年：現代の諸問題（政治的問題・人権問題・ジェンダー問題・教育問題・市民権）。

高等学校段階では、市民としての社会への関わりが中心題材となるものとなっている。11～12年において、「文化社会と政治、社会科学、応用社会科学、フィリピン政治と統治、世界宗教と信条、21世紀文化の傾向とネットワークと批判的思考、コミュニティへの関与・連帯・市民権」を学習させるようになっている。

表2 幼稚園から12学年の社会科の内容と領域(Department of Education, 2016)

学年 (初等教育)	内容題目	領域
幼稚園	私とコミュニティ	自己認識と環境に対する社会的相互作用の重要性について紹介する。
1	私・家族、学校	持続可能性と変化、相互作用、距離と方向、物理的環境への感謝などの概念を通じて、家族、学校、コミュニティの一員であることを強調する。
2	過去と現在のコミュニティ	継続性と変化、相互作用、出来事の時系列、場所やリソースなどの単純な地理的概念、オーラルヒストリーや成果物などの歴史的証人の概念を使用して、コミュニティの歴史と現在の状況に焦点を当てる。
3	フィリピンの地方	持続可能性と革新、物理的および社会的環境への人間の相互作用の概念を使用して、文化的、政治的、社会的、経済的側面を含む地方と地域の起源と発展を紹介する。
4	国 (Country) としてのフィリピン	地理的技能、文化的および経済的理解、管理への参加、国の目標への評価を使用して、フィリピンの文化と国家開発を形作る上での国民的アイデンティティと各地域の貢献に対する感謝を強調する。
5	国家(Nation)としてのフィリピン	歴史的意義、変化、発展、持続可能性などの基本的な歴史的概念を使用して、20世紀初頭までのフィリピンの古代社会と文化を紹介する。

6	ナショナリズムの 挑戦と応答	特定のフィリピン人のアイデンティティと現在の国民性の形成に対する 20 世紀の課題と対応を強調する。
(中学校)		
7	アジアの歴史	この地域の国々の地理的認識、歴史、文化、社会、政府、経済の理解と評価を通じて、アジアのアイデンティティの形成に焦点を当てる。
8	世界史	調査スキル、データとさまざまなリソースの分析、研究、クラス思考、強力なコミュニケーション、および古代から現在までの世界の歴史、政治、経済、文化、社会の理解に焦点を当てる。
9	経済	国と世界の批判的、反省的、説明責任、環境的、生産的、公正で人道的な市民の形成に向けた社会規律のスキルと評価を使用して、経済学の重要な概念と現在の問題に焦点を当てる。
10	現代の諸問題	調査、データ分析、研究、批判的思考、効果的なコミュニケーション、公平性、賢明な意思決定を使用して、環境、経済、政治、人権、教育、市民の責任の問題と今日の国々が直面している課題の深い理解に焦点を当てる。
(高等学校)		
それぞれの内容題目は、高等学校の2つの学年のいずれかで教える	文化社会と政治	このコースは、人類学、政治学、社会学からの洞察を使用して、文化的、社会的、政治的ダイナミクス、および感受性に対する生徒の認識を高める。文化の多様性、文化、人間のエージェンシー、社会、政治がどのように機能するかについての理解を彼らに提供する。そして、国の現在の人間開発目標の調査に生徒を関与させる。
	社会科学	このコースでは、社会科学を構成する分野における基本的な概念、主題、および探究方法を学生に紹介します。次に、これらの分野で影響力のある思想家やアイデアについて議論し、これらのアイデアをフィリピンの設定と現在の世界的な傾向に関連付ける。
	応用社会科学	このコースでは、心理学、社会学、人類学、およびその他の社会科学の理論と原則から基礎を引き出すいくつかの応用社会科学、すなわちカウンセリング、ソーシャルワーク、およびコミュニケーションを紹介する。このコースでは、重要な開発分野におけるこれらの応用分野のプロセスとアプリケーションに焦点を当

		てながら、さまざまな応用社会科学分野のシームレスな相互接続性を強調している。
	フィリピン政治と統治	このコースでは、歴史的制度的観点から、政治と統治の基本的な概念と重要な要素を生徒に紹介する。私たちの国の政治構造・制度、過程、および関係の重要な特徴が時間とともにどのように発展したかを説明するものである。
	世界宗教と信条	このコースでは、社会科学を構成する分野における基本的な概念、主題、および探究方法を生徒に紹介する。次に、これらの分野で影響力のある思想家や信条について議論し、これらのアイデアをフィリピンの設定と現在の世界的な傾向に関連付ける。
	21世紀文化の傾向とネットワークと批判的思考	このコースは、学生がパターンを発見し、新たな傾向から意味を抽出する機会を提供する。生徒の批判的で創造的な思考スキルを開発するものである。それは、意思決定と「ケアの倫理」を理解するための不可欠なツールである。21世紀の世界的な傾向を調べ、健全な基準で受け入れられるか拒否されるかを判断する。
	コミュニティへの関与・連帯・市民権	このコースでは、現代のコミュニティ生活の課題を理解、調査、調査するための社会科学のアイデアと方法の適用に焦点を当てる。人権、社会正義、エンパワーメントとアドボカシー、ジェンダー平等、参加型開発の価値に導かれて、コミュニティ結束、連帯、市民権などのコミュニティアクションイニシアチブに焦点を当てる。

#### 4 公民系教科目の教育目標・教育内容（小中高の一貫性を観点に）

##### （1）目標

社会科カリキュラムは、社会、国、世界の生活に参加するフィリピン人としての特定のアイデンティティと役割を持つ若者を育成することを目的としている。アイデンティティと市民の能力の開発に加えて、個人と集団の未来を形作るために、社会の過去と現在、社会と自然、世界との関係、それらがどのように変化し進化するかを理解する必要がある。

表3 公民の内容(Department of Education, 2016)

学年や段階	内容
1	自己 家族 コミュニティ、学校、環境
2	コミュニティ 文化（生活様式、伝統と価値、祭典、芸術）
3	地方と地域

	歴史 国家のシンボル 指導者の役割と責任
4	国家政府 社会サービス フィリピン市民の権利と義務
10	政治的問題 出入国 国境と国境紛争 政治体制 入植と腐敗 人権問題 ジェンダー問題 教育に関する課題 市民と市民権 市民参加 政治的社会化
(高等学校)	
文化社会と政治	社会的、政治的、文化的変化への応答 市民権の包摂と統治への参加 社会運動（環境主義、フェミニズム）
フィリピン政治と統治	フィリピン民主主義の歴史的背景 国の指導者の役割と責任 （大統領、上院議員、衆議院、司法、地方自治体） 選挙と政党 市民社会と社会運動 市民権
21 世紀文化の傾向とネットワークと批判的思考	民主的介入
コミュニティへの関与・連帯・市民権	コミュニティ・アクション・イニシアチブの基本的価値と原則 人権 社会正義 エンパワーメントとアドボカシー 参加型開発 ジェンダー平等 コミュニティの行動の方法論とアプローチ、および分野を超えた関与 地域団体とのパートナーシップ構築 コミュニティプロファイリング ニーズ評価 リーダーのコアグループとの協力/リーダーシップ開発 参加型行動計画 資源動員 社会貢献活動 評価

## (2) スタンダード or コンピテンシー

社会科においては、公民系の内容が中心を占めている。また、上記の目標を達成するには、社会科の相互に関連する次の5つのコンピテンシーが必要であるとされている。次の5つである。

(i)調査と吟味、(ii)データ・情報の分析と解釈、(iii)研究、(iv)コミュニケーション：特にエッセイの書き方、(v)倫理基準の遵守。

表4 社会科におけるコンピテンシーと技能

コンピテンシー	技能
調査と吟味	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 索引または情報源を特定する。</li> <li>2. 地図と地図帳を使用して、さまざまな場所、場所、その他の地理情報を特定する。</li> <li>3. 技術ツールを使用して、情報参照を表示または検索する。</li> </ol>
データの分析と解釈	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 統計データを読み取る。</li> <li>2. 統計的または数学的手法を使用して、経済現象に関する定量的情報とデータを分析する。</li> <li>3. 参考文献の歴史的背景と著者の動機と視点を理解するために批判的に読む。</li> </ol>
情報の分析と解釈	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 一次資料の意味、種類、重要性、および二次資料との違いを理解する。</li> <li>2. 当時の価値観、慣習、習慣に対する認識を高め、現在の情報の違いや類似点を特定する。</li> <li>3. 著者または作成者の歴史的視点を認識する。</li> <li>4. 意見と事実を区別する。</li> <li>5. 著者/作成者の偏見や視点を認識して情報を評価する。</li> <li>6. さまざまな一次資料からデータを取得する。</li> <li>7. データまたは証拠から推測する。</li> <li>8. 情報を整理して、基本的な事実とアイデアを自分の言葉で要約する。</li> <li>9. 原因と結果を理解する。</li> <li>10. 関連する情報源からの情報を比較し、同意と不一致を特定する。</li> <li>11. 出来事の異なる、矛盾する説明についての解釈をする。</li> <li>12. 人々、グループ、イベント、プロセス、または運動や制度に歴史的重要性を考える。</li> <li>13. テーマについて、参照しながら、自分の考えや視点を熟考する。</li> <li>14. 自分の考えを著者/作成者の考えと比較し、2つの考えが同意または反対する点と理由を説明する。人口の移動と移動、その分布、原因と影響を理解する。</li> <li>15. 社会および環境の変化に対する地理の役割と影響を理解する。</li> <li>16. 経済学の基本概念を理解し、定量的データを分析するために数学的方法を使用する。</li> <li>17. 情報の解釈に基づいて結論を出す。</li> </ol>
研究	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 適切かつ十分な証拠に基づいて質問に答える。</li> <li>2. 研究成果を論理的に推論する。</li> <li>3. 機器を使用して、調査、データの分析、エッセイや論文の作成、および研究プレゼンテーションの準備をする。</li> </ol>
コミュニケーション：	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 適切な参照からのさまざまな情報を調整する。</li> <li>2. 参照から道筋を識別し、正しく使用する。</li> </ol>

特にエッセイの書き方	<p>3. 適切な証拠またはデータに裏付けられた、研究過程または問題についての自分の考えを明確かつ整然とした方法で伝達する。</p> <p>4. 説明するときに、簡潔で明確な導入と結論を形成する。</p> <p>5. 適切かつ十分な情報または証拠を適切な方法で使用して、出来事、問題、または現象を説明するエッセイ（高等学校段階では3～5ページの長さ）を書く。</p>
倫理基準の遵守	<p>1. コミュニティ、国、世界の生活に有意義な方法で参加する市民としての権利と義務を理解する。</p> <p>2. 人、地域、文化、信条の多様性と人権を尊重し、尊重する。</p> <p>3. 自分の欲望、信念、視点、または立場に警戒する。</p> <p>4. 異なる見解を持つ人々が自分の考え、立場、見解に同意しなくても、平等に対応するとともに尊重する。</p> <p>5. 著者/作成者の知的財産権を認識し、作成する論文で使用されている参照（反応、短いエッセイ）を明確にする。</p>

### （3）評価

K to 12 社会科カリキュラムでは、形成的または総括的評価を通じて、個別に、またはグループごとに評価される。総括評価は、筆記、パフォーマンスタスク、および4分の1学期ごとのテストで構成される。

### 5 他教科・領域等における教育目標・教育内容：

社会科の内容は本質的に学際的である。トピックは相互にリンクおよび接続している。深い概念や思想をより理解できる他教科（言語、自然科学、芸術）とのつながりがある。

表5 他教科・他領域における内容

他教科・他領域	学校段階	主題	概要
多様性		オーラルコミュニケーション	異文化間コミュニケーション
		言語とフィリピン文化のコミュニケーションと研究	多文化主義 フィリピンの言語状況
		人間哲学への導入	間主観性
権利と義務	高等学校	メディアと情報リテラシー	メディアと情報リテラシーのある個人 a.生活の質の向上 b.政治参加の拡大 c.より良い経済的機会 d.学習環境の改善 e.よりまとまりのある社会単位
		人間哲学への導入	社会の中の人間

		防災とリスク削減	国家と市民の間で何を期待するのか
環境		地球と生活科学	1.生態系の原則 2.生物的ポテンシャルと耐環境性 3.陸域および水生生態系 4.人間の活動が自然の生態系に与える影響
		人間哲学への導入	環境の中の人間
技術と社会発展		メディアと情報リテラシー	メディアと情報の機会、課題、力 a. 経済的、教育的、社会的、政治的 b. 脅迫、リスク、悪用、誤用  メディア・情報の現状と今後の動向 a.大規模でオープンなオンラインコンテンツ b.ウェアラブル技術(グーグルグラス、iPhone ウォッチなど) c.3D 環境(プリンター、3D フィルム、3D ホログラムなど) d. ユビキタス学習

## 6 特記事項

「Kabataang Barangay (青年バランガイ議会)」という青年層からの選挙にて選出される議会がある。バランガイは、フィリピンにおける最小の地方自治単位である。また、「Sangguniang Kabataan (青年協議会)」という公選協議会もある。

## 7 日本への示唆 (提案)

学校等で学んだことをコミュニティにて公的に議論することができる点は、示唆に富む点である。また、フィリピンの課題である地域差への対応、多様性と国家(基準、統一)との調整が教育、特に学校教育に課されている。フィリピンの未来には教育が重要である。

## 参考文献

Congress of the Philippines. 2016. *Republic Act No. 10742. An act establishing reforms in the sangguniang kabataan creating enabling mechanism for meaningful youth participation in nation-building and for other purposes.*

National Youth Commission. (2017). *Sangguniang Kabataan Operations Manual: A guide in reaffirming the role of the Filipino youth in nation-building.*

<https://drive.google.com/file/d/137Lvprgxm7gzvTVYk1vgnZFNMXkMrZ3/view>

Teehankee, J. (2002). *Electoral politics in the Philippines.*

[https://www.researchgate.net/publication/237105428\\_Electoral\\_Politics\\_in\\_the\\_Philippines](https://www.researchgate.net/publication/237105428_Electoral_Politics_in_the_Philippines)

The Constitution of the Republic of the Philippines. (1935). *Article V. Suffrage*.

<https://www.officialgazette.gov.ph/constitutions/the-1935-constitution/>

The Constitution of the Republic of the Philippines. (1973). *Article VI. Suffrage*

<https://www.officialgazette.gov.ph/constitutions/1973-constitution-of-the-republic-of-the-philippines-2/>

The Constitution of the Republic of the Philippines. (1987). *Article V. Suffrage*.

<https://www.officialgazette.gov.ph/constitutions/1987-constitution/>

Humanist Alliance Philippines International. (2017). Women's right to vote: A lookback at the

Philippine struggle for human right. <https://hapihumanist.org/features/womens-right-vote-lookback-philippine-struggle-human-rights/>

フィリピンの教育政策や社会科等に関しては、フィリピン教育省（Department of Education）のウェブサイトに掲載されている次の文書等を参考とした。

*K to 12 Araling Panlipunan gabay pangkurikulum.*

*K to 12 Senior high school core curriculum - Introduction to the philosophy of human person.*

*K to 12 Senior high school core curriculum - Komunikasyon at pananaliksik sa wika at kulturang Pilipino.*

*K to 12 Senior high school core curriculum - Media and information literacy.*

*K to 12 Senior high school core curriculum - Oral communication in context.*

Ms. Sheridan Matias Reyes (Teacher of Jose V. Palma Senior High School in Quezon. Ehime University Teacher Training Students under the Japanese Government (MEXT) Scholarship Program, 2020年11月～2022年3月) に協力いただいた。記して感謝申し上げます。

鴛原 進 (愛媛大学)